

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ（就労支援サービスを含む） <small>Support for the Challenged Person and Support System for Independence of the Challenged Person I (including supporting services for employment)</small>		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
吉田 志保	福祉棟	授業以外の時間	授業中に指示します	
授業の概要				
障害の理念と福祉の基本理念を歴史的に概観し、各障害の理解から生活障害を把握したうえで、障害福祉制度（各障害の根拠法および関連法規等）について学習する。				
授業の目標				
①障害および福祉の理念が説明できるようにする。 ②各障害の種類と特性および根拠法が説明でき、関連法規を列挙できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、個人ワーク・発表も取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①障害福祉の理念を説明することができる。 ②各障害の理解から生活障害を捉え、関連する法規とつなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、障害とは何か、障害の分類と根拠法			
第2回目	障害の概念（ICIDHとICF）			
第3回目	障害福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、QOL）			
第4回目	障害者福祉制度の発展過程（人権尊重と権利擁護含む）			
第5回目	障害に係る法の理解① 個人ワーク（一人1課題 別途提示）			
第6回目	障害に係る法の理解② 個人ワーク			

第7回目	障害に係る法の理解③ 発表、まとめ (レポート課題1 発表終了後提出)	
第8回目	生活実態と生活障害 (各種データからの概観、障害施策の体系等) 小テスト① (筆記試験形式) および解答解説	
第9回目	障害の理解① 障害の種類と特性 身体障害	
第10回目	障害の理解② 障害の種類と特性 知的障害	
第11回目	障害の理解③ 障害の種類と特性 精神障害	
第12回目	障害の理解④ 障害の種類と特性 発達障害、高次機能障害	
第13回目	障害の理解⑤ 障害の体験 感覚器障害と運動機能障害 (レポート課題2 提出第14回目)	
第14回目	障害の理解⑥ 視聴覚教材	
第15回目	まとめ、小テスト② (筆記試験形式) および解答解説	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	10%	テキストや配布資料等を持参し、自主的にメモしている。個人ワークに積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	①関連する法律について調べまとめる。S：他者にわかるようにまとめている。 ②体験レポート S：体験からの学びを明確に記述している。 共通：誤字脱字がなく、分量が適切である。(各10%)
調査報告書		
小テスト	60%	2回実施 ①第2回目～第7回目までの知識の確認 ②第9回～第12回目までの知識の確認 (各30%) 社会福祉士国家試験に準じた選択式である。参照物は不可とする。
試験		
発表内容 (態度含む)	10%	発表原稿を準備し、発表の練習をしている。
その他		
教科書と参考図書		
教科書 ①新・社会福祉士養成講座14 第5版「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版 ②新・社会福祉士養成講座18 第3版「就労支援サービス」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
新聞記事やニュース等から障害に関する情報を得るようにして、専門用語の理解に努めてほしい。		